

■洞薬会（北九州地区勤務薬剤師会） 9月度学術講演会

（2012年9/20（木）18：30～，会場；ステーションホテル小倉）

「2型糖尿病の大血管症抑制を目指した治療選択

～DPP-4 阻害薬使用症例での CGM データを中心に～」

講 師 産業医科大学医学部 第一内科学講座 学内講師 新生 忠司 先生

〔講演要旨〕

我が国の2型糖尿病の大血管障害を抑制するためには、まずは適切な血圧、脂質のコントロールが重要である。

それに加え血糖に関しては早期からの治療介入とともに、低血糖や血糖変動の少ない、いわゆる"良質な HbA1c"を目指すことが何よりも重要であると言われている。そこで新たな治療戦略として、DPP-4 阻害薬や GLP-1 製剤が特に注目されてきている。

当科における DPP-4 阻害薬使用症例での CGMS でのデータを提示しながら、その有効性と今後の展望について分かりやすく解説する。

*CGMS (continuous glucose monitoring system、持続血糖測定システム)とは？

専用の穿刺具により皮下組織にセンサーを挿入して、皮下間質液中のグルコース濃度を連続して測定する機械のこと。挿入されたセンサーには酵素(glucose oxidase：ブドウ糖酸化酵素)が含まれており、この酵素を 間質液中のグルコースと反応させ、電気信号に交換し連続測定をしている。10 秒ごとに血糖値の測定を行い、5 分ごとの平均値を記録する。1 日 288 回の測定値が記録される。